

民間ネット調査「こどもの貧困対策について」に関する調査結果

◆調査の目的

大阪市では、子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自らの可能性を追求できる社会の実現に向けたこどもの貧困対策の取組みを推進しています。

今回の調査は、市民の皆様の「こどもの貧困」に関する関心度についてお聞きし、今後のこどもの貧困対策の取組みの参考とさせていただくために実施しました。

◆調査方法と回収状況

調査方法と回収状況

実施調査	民間ネット調査
	「こどもの貧困対策について」
対象者	民間調査会社に登録するインターネットモニターのうち、市内に居住する方
	年代別（18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上） 各100名（計500名）
調査方法	インターネットを利用したウェブアンケート調査
調査期間	令和3年10月1日～10月6日
回収状況	回答数 500

◆調査結果をご覧になる際の留意事項

本アンケートの回答者は民間調査会社に登録するインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「市民全体の縮図」ではありません。そのため、調査結果は、「市民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の状況にとどまります。

回答者のプロフィール

▶ 年代別、男女別の回答者は、万遍なく分布している。

回答者数と内訳

(単位：人)

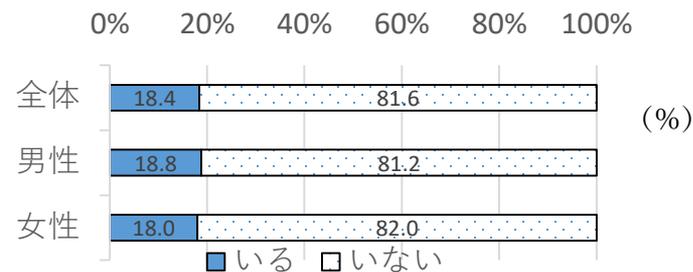
年代		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
性別	男性	50	50	50	50	50	250
	女性	50	50	50	50	50	250
合計		100	100	100	100	100	500

問1 あなたの世帯に18歳以下の方はいますか

▶ 全回答者のうち、世帯内に18歳以下の方（本人含む）がいる方の割合は全体で18.4%であった。

(単位：人)

		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
いる	男性	11	15	11	9	1	47
	女性	10	16	14	4	1	45
	全体	21	31	25	13	2	92
いない	男性	39	35	39	41	49	203
	女性	40	34	36	46	49	205
	全体	79	69	75	87	98	408
合計		100	100	100	100	100	500

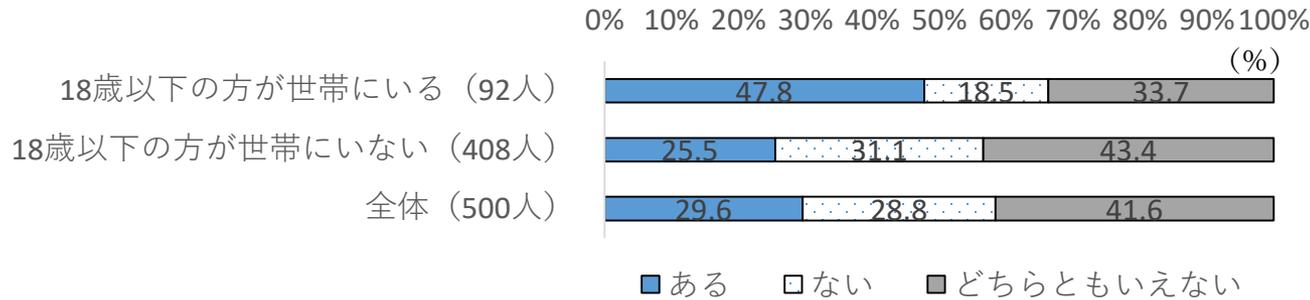
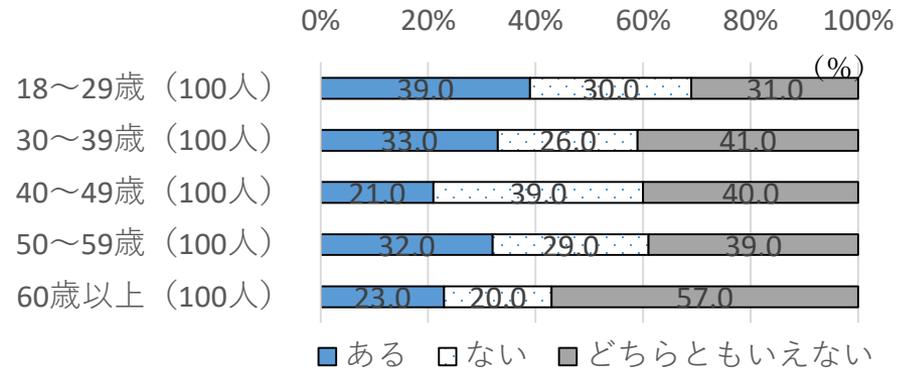
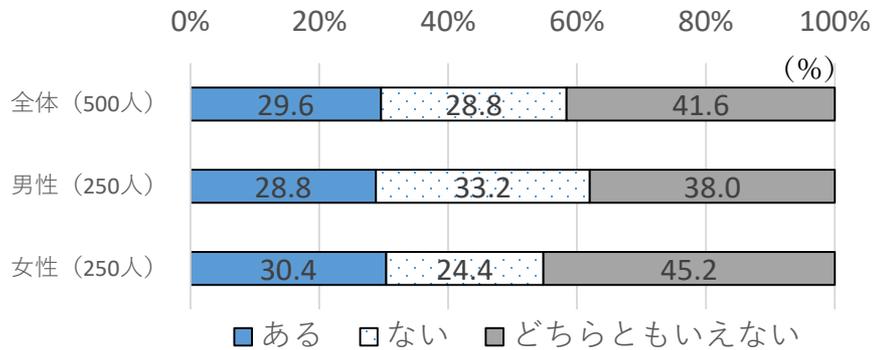


	R2 民間ネット調査 全体 (500人)		R3 民間ネット調査 全体 (500人)	
いる	96	19.2%	92	18.4%
いない	404	80.8%	408	81.6%
合計	500	100%	500	100%

結果の概要

問2 あなたは、「こどもの貧困問題」について関心がありますか

- 全体の傾向 : 「関心のある」割合は、全体の29.6%。
- 18歳以下の世帯員の有無による傾向: 「関心のある割合」は、18歳以下の世帯員がない (25.5%) より、いる (47.8%) 方が高い。

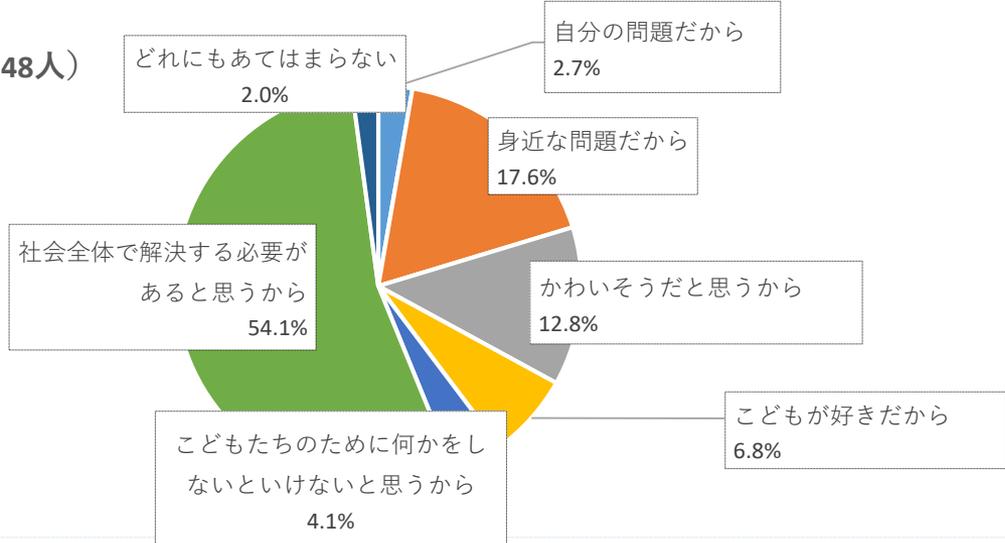


	R2 民間ネット調査						R3 民間ネット調査					
	全体 (500人)		うち 18歳以下の方がいる (96人)		うち 18歳以下の方がいない (404人)		全体 (500人)		うち 18歳以下の方がいる (92人)		うち 18歳以下の方がいない (408人)	
ある	147	29.4%	55	57.3%	92	22.8%	148	29.6%	44	47.8%	104	25.5%
ない	169	33.8%	22	22.9%	147	36.4%	144	28.8%	17	18.5%	127	31.1%
どちらともいえない	184	36.8%	19	19.8%	165	40.8%	208	41.6%	31	33.7%	177	43.4%
合計	500	100%	96	100%	404	100%	500	100%	92	100%	408	100%

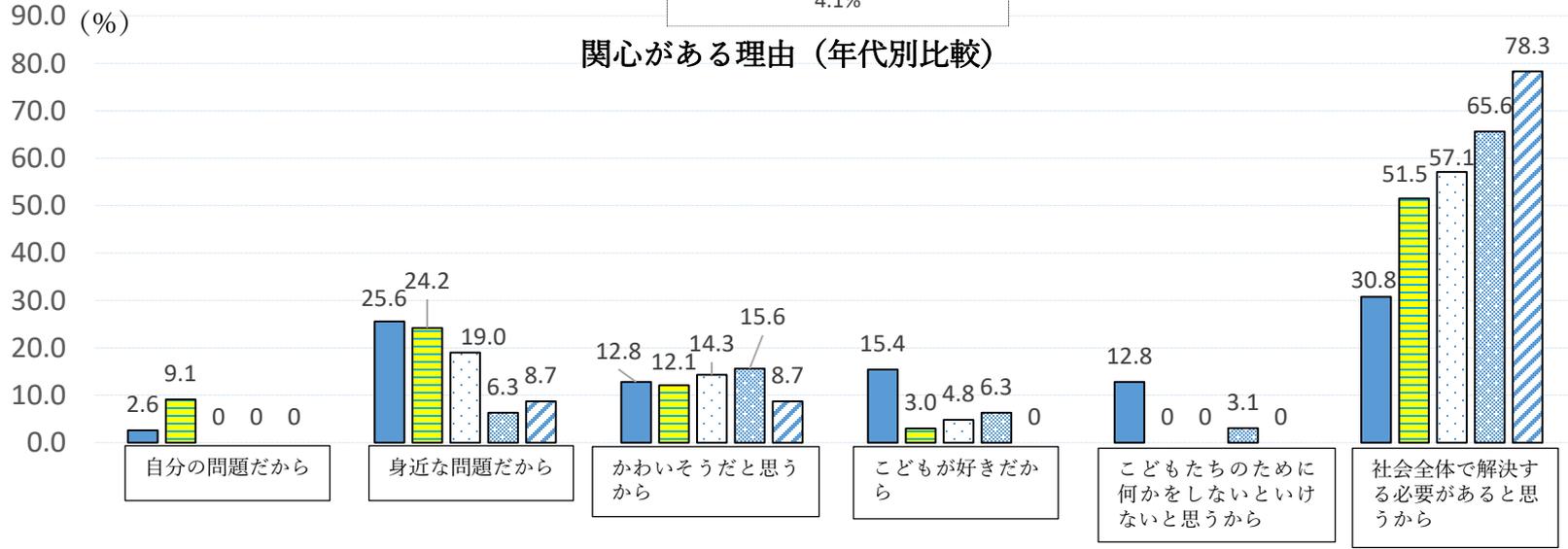
問3 関心がある理由について一番近いものを選んでください。

- 全体の傾向：最も多かった理由は「社会全体で解決する必要があると思うから（54.1%）」
- 年代別の傾向：年代が高くなるにつれ「社会全体で解決する必要があると思うから」の割合が高くなる傾向がある。
- 18歳以下の世帯員の有無別の傾向：「身近な問題だから」の割合は、18歳以下の世帯員がいる（34.1%）方が、いない（10.6%）より高く、「社会全体で解決する必要があるから」の割合は、18歳以下の世帯員がいない（61.5%）方が、いる（36.4%）より高い。

関心がある理由（全体）（148人）

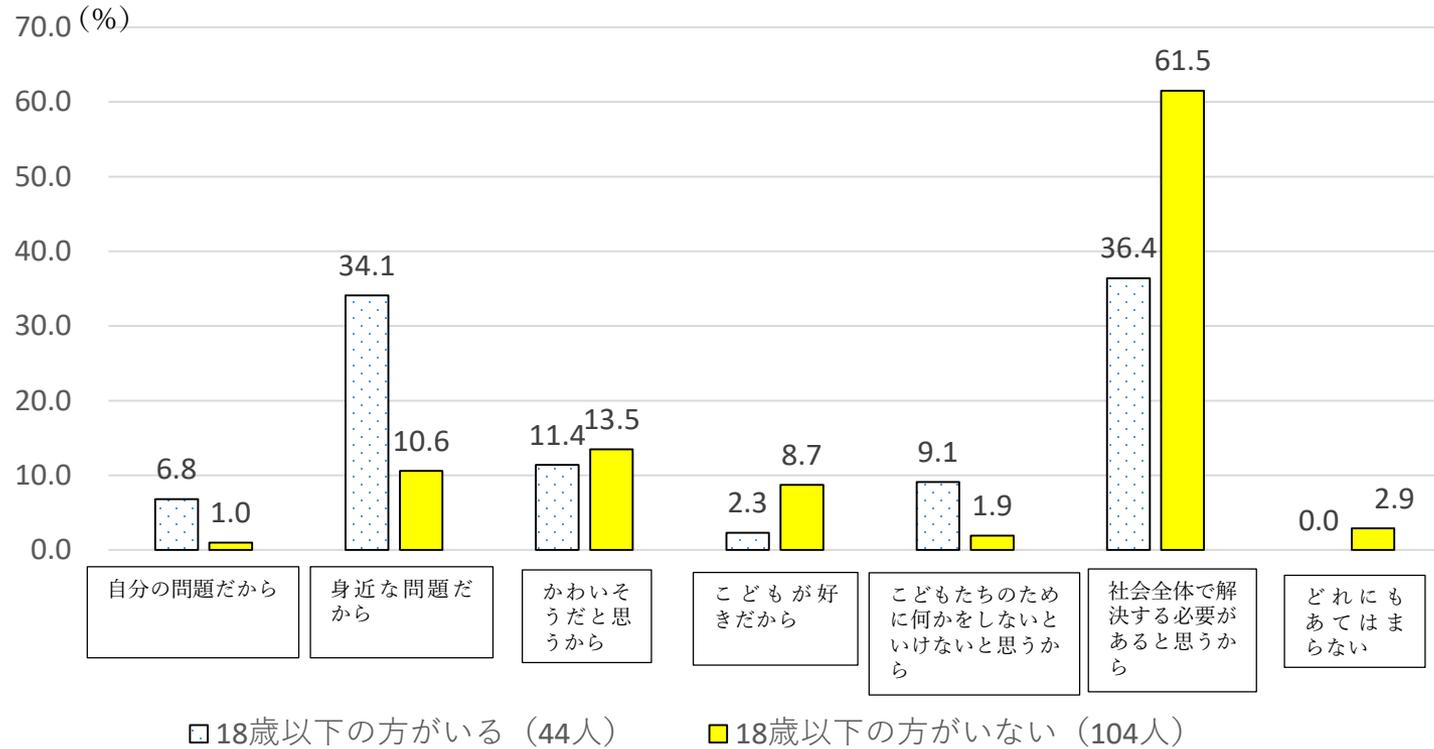


関心がある理由（年代別比較）



■ 18～29歳（39人） ■ 30～39歳（33人） □ 40～49歳（21人） ■ 50～59歳（32人） ■ 60歳以上（23人）

関心がある理由（18歳以下の世帯員の有無別比較）

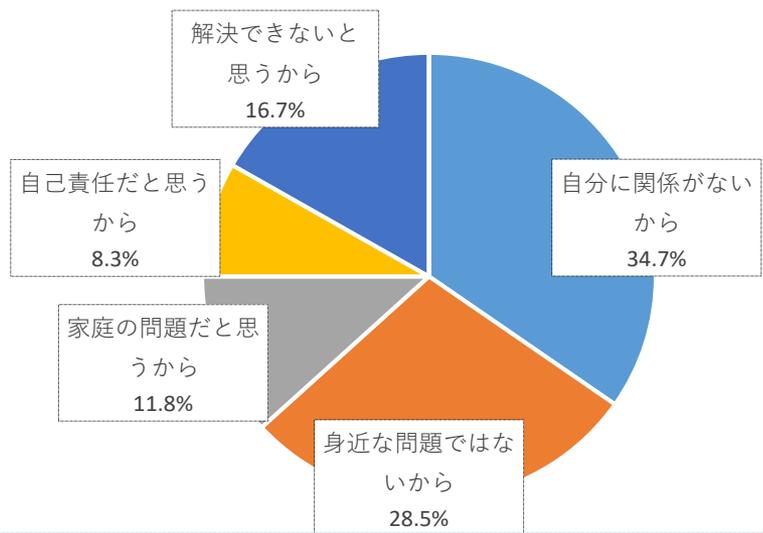


	R2 民間ネット調査						R3 民間ネット調査					
	全体 (147人)		うち18歳以下の方がいる (55人)		うち18歳以下の方がいない (92人)		全体 (148人)		うち18歳以下の方がいる (44人)		うち18歳以下の方がいない (104人)	
自分の問題だから	8	5.4%	6	10.9%	2	2.2%	4	2.7%	3	6.8%	1	1.0%
身近な問題だから	36	24.5%	19	34.5%	17	18.5%	26	17.6%	15	34.1%	11	10.6%
かわいそうだと思うから	23	15.6%	11	20.0%	12	13.0%	19	12.8%	5	11.4%	14	13.5%
こどもが好きだから	6	4.1%	3	5.5%	3	3.3%	10	6.8%	1	2.3%	9	8.7%
こどもたちのために何かをしないといけないと思うから	9	6.1%	4	7.3%	5	5.4%	6	4.1%	4	9.1%	2	1.9%
社会全体で解決する必要があると思うから	64	43.5%	12	21.8%	52	56.5%	80	54.1%	16	36.4%	64	61.5%
どれにもあてはまらない	1	0.7%	0	0%	1	1.1%	3	2.0%	0	0%	3	2.9%
合計	147	100%	55	100%	92	100%	148	100%	44	100%	104	100%

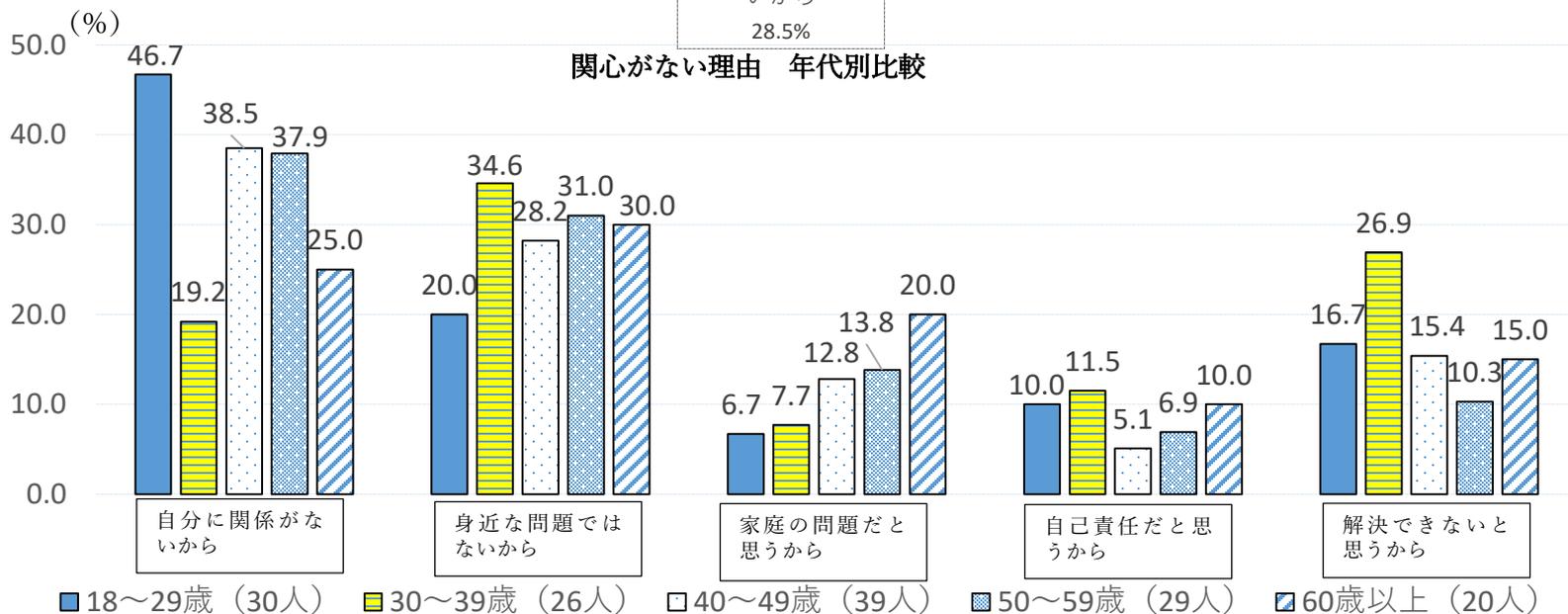
問4：関心がない理由について一番近いものを選んでください。

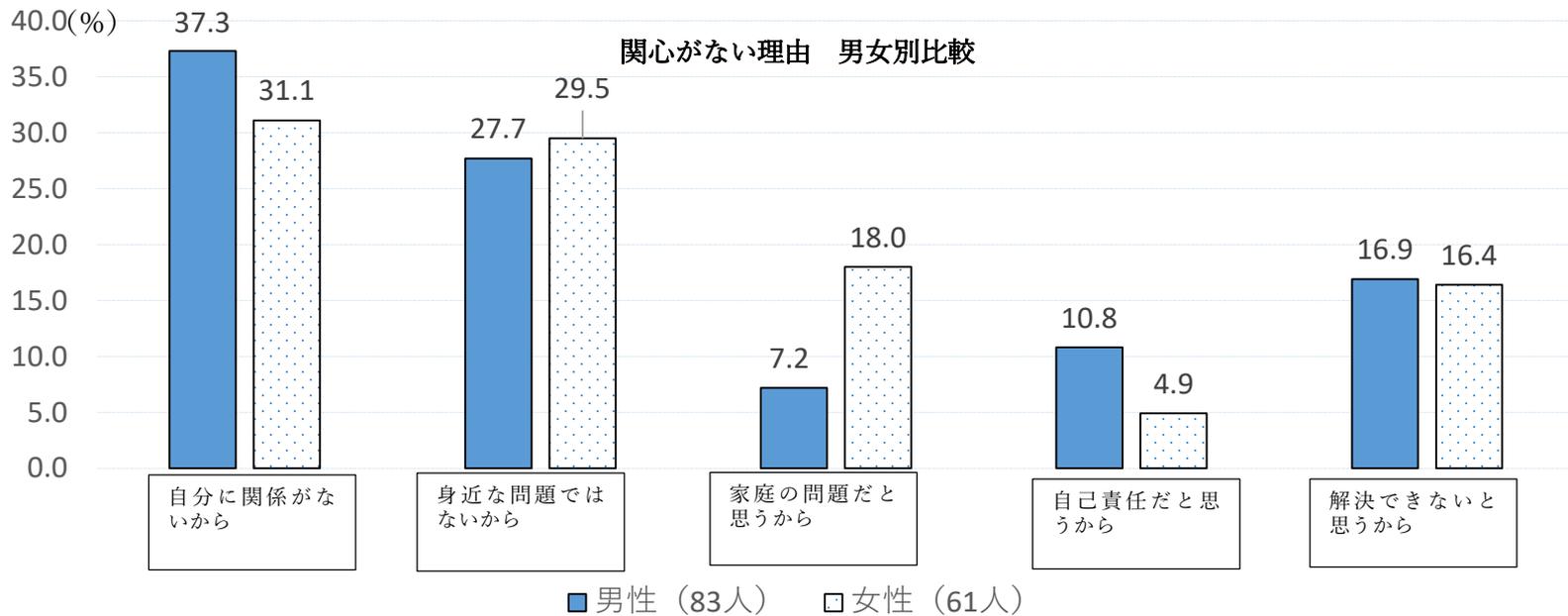
- ▶ 全体の傾向：関心がない理由について、全体では「自分に関係がないから（34.7%）」「身近な問題ではないから（28.5%）」の割合が高い。
- ▶ 年代別の傾向：「家庭の問題だと思うから」の割合は、年代が高くなるにつれ高くなる傾向がある。
- ▶ 男女別の傾向：「自分に関係ないから」の割合では、男性（37.3%）の方が女性（31.1%）より高く、「自己責任だと思うから」の割合では、男性（10.8%）の方が、女性（4.9%）より高い。

関心がない理由（全体）（144人）



関心がない理由 年代別比較



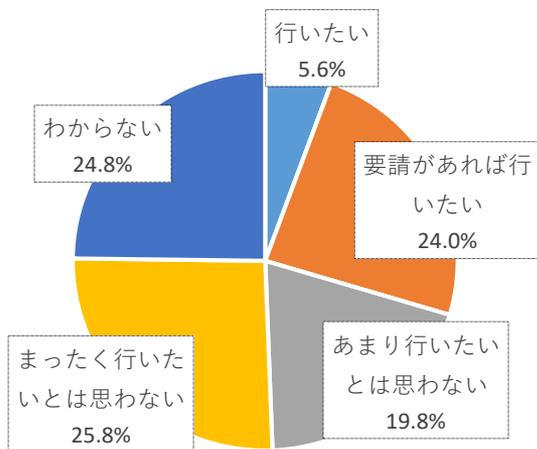


	R2 民間ネット調査						R3 民間ネット調査					
	全体 (169人)		うち男性 (79人)		うち女性 (90人)		全体 (144人)		うち男性 (83人)		うち女性 (61人)	
自分に関係がないから	66	39.1%	33	41.8%	33	36.7%	50	34.7%	31	37.3%	19	31.1%
身近な問題ではないから	43	25.4%	19	24.1%	24	26.7%	41	28.5%	23	27.7%	18	29.5%
家庭の問題だと思うから	20	11.8%	10	12.7%	10	11.1%	17	11.8%	6	7.2%	11	18.0%
自己責任だと思うから	11	6.5%	2	2.5%	9	10.0%	12	8.3%	9	10.8%	3	4.9%
解決できないと思うから	26	15.4%	12	15.2%	14	15.6%	24	16.7%	14	16.9%	10	16.4%
その他	3	1.8%	3	3.8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	169	100%	79	100%	90	100%	144	100%	83	100%	61	100%

問5 あなたは、こどもの見守りや居場所づくりなどのボランティア活動を行いたいと思いますか。

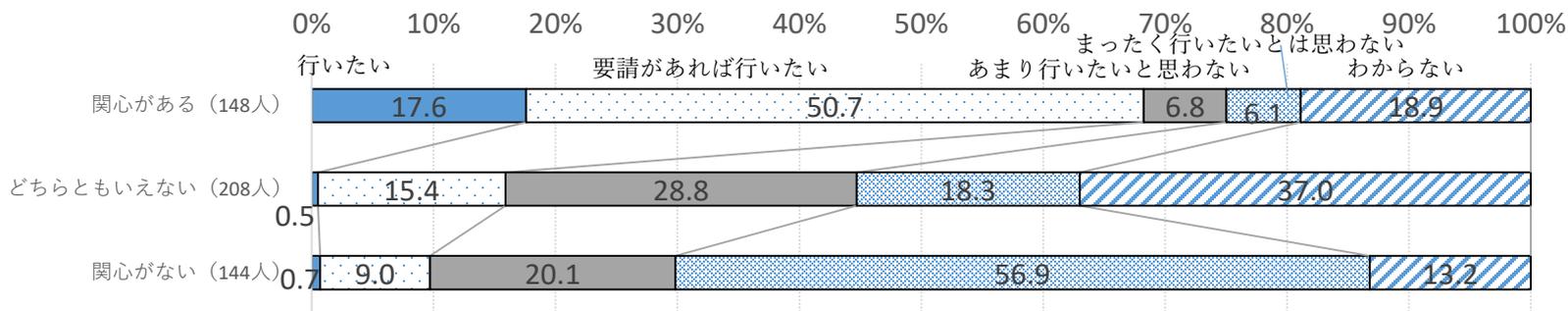
- ▶ 全体の傾向：「行いたい (5.6%)」「要請があれば行いたい(24.0%)」の割合の合計 (29.6%) よりも、「まったく行いたいとは思わない (25.8%)」「あまり行いたいとは思わない (19.8%)」の割合の合計 (45.6%) の方が高い。
- ▶ 「こどもの貧困問題」の関心の有無別の傾向：「関心がある」では「行いたい (17.6%)」「要請があれば行いたい (50.7%)」の割合の合計が68.3%であるのに対し、「関心がない」では「行いたい (0.7%)」「要請があれば行いたい (9.0%)」の割合の合計が9.7%となっており、関心の有無別で顕著な差がみられる。また、「関心がない」では「まったく行いたいとは思わない (56.9%)」の割合が最も高い。

こどもの見守りや居場所づくりなどのボランティア活動を行いたいと思うかについて (全体) (500人)



	R2 民間ネット調査		R3 民間ネット調査	
	全体 (500人)		全体 (500人)	
行いたい	18	3.6%	28	5.6%
要請があれば行いたい	132	26.4%	120	24.0%
あまり行いたいとは思わない	126	25.2%	99	19.8%
まったく行いたいとは思わない	102	20.4%	129	25.8%
わからない	122	24.4%	124	24.8%
合計	500	100%	500	100%

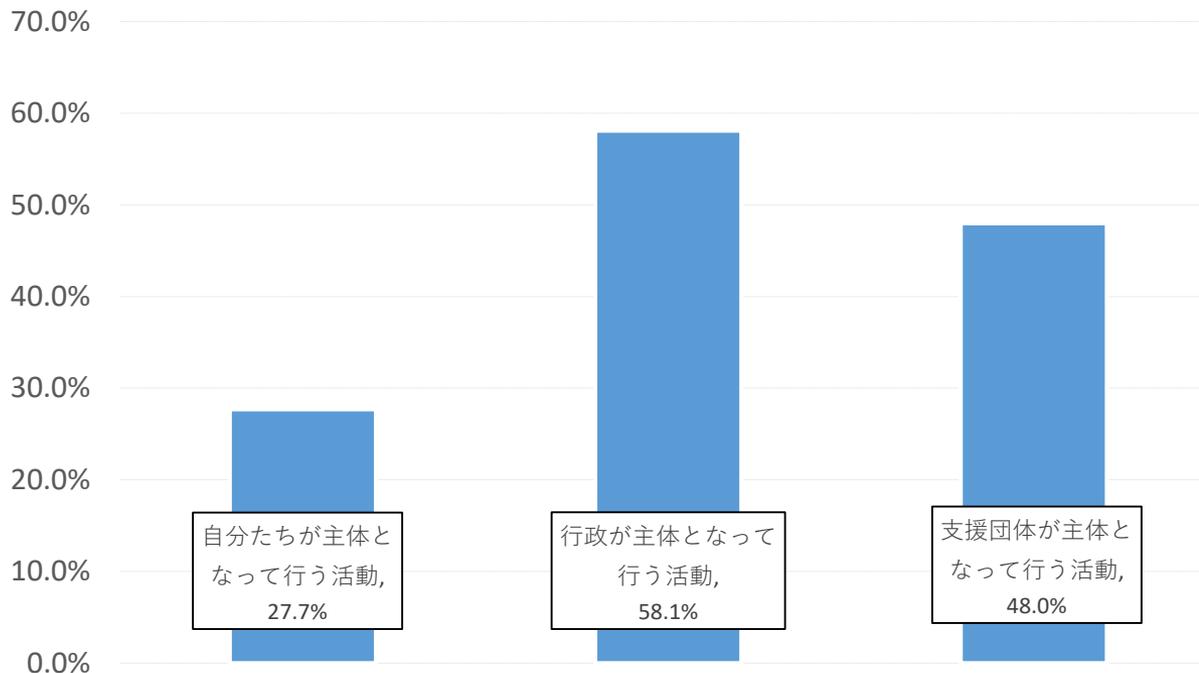
こどもの見守りや居場所づくりなどのボランティア活動を行いたいと思うかについて 「こどもの貧困問題」の関心の有無別比較



問6 問5で「ア. 行いたい」または「イ. 要請があれば行いたい」を選ばれた方にお聞きします。あなたは、どのようなボランティア活動であれば参加したいと思いますか。（複数回答）

➤ 全体の傾向：「行政が主体となって行う活動（58.1%）」の割合が最も高い。

どのようなボランティア活動であれば参加したいと思うか（全体）（150人）

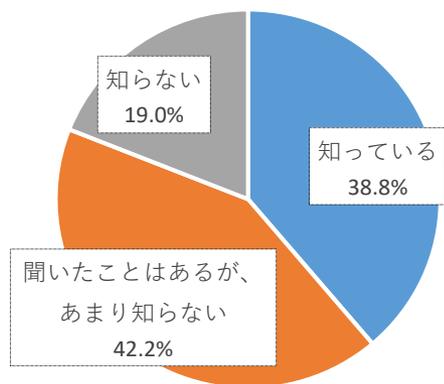


	R2 民間ネット調査		R3 民間ネット調査	
	全体（150人）		全体（148人）	
自分たちが主体となって行う活動	44	29.3%	41	27.7%
行政が主体となって行う活動	102	68.0%	86	58.1%
支援団体が主体となって行う活動	47	31.3%	71	48.0%

問7 こどもの居場所のひとつである、「こども食堂」を知っていますか。

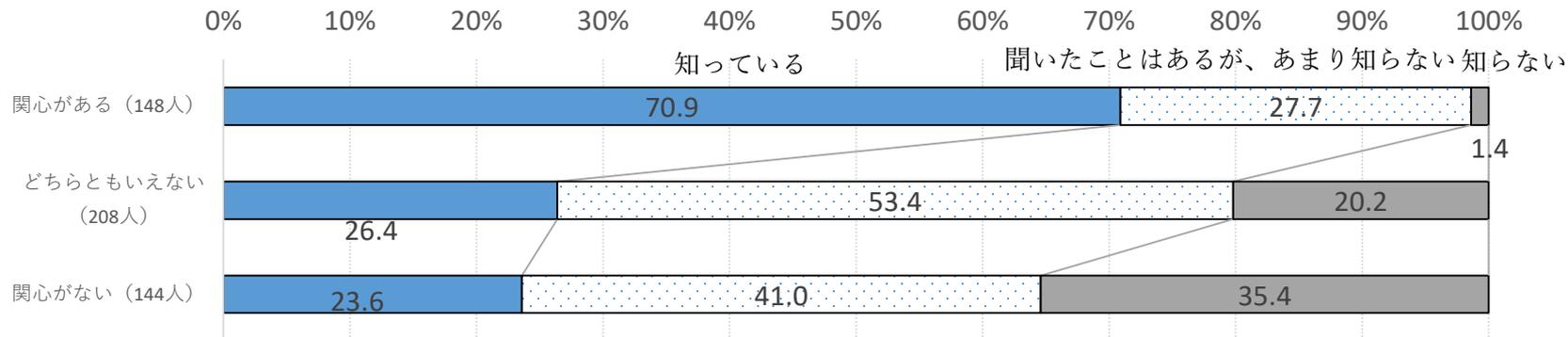
- 全体の傾向：「こども食堂」について、「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合（42.2%）が最も高く、「知らない」の割合（19.0%）が最も低い。
- 「こどもの貧困問題」の関心の有無別の傾向：「こどもの貧困」について「関心がある」では、「知っている」の割合が70.9%に対し、「関心がない」では、「知っている」の割合が23.6%と関心の有無別で顕著な差がみられる。

こどもの居場所のひとつである、「こども食堂」を知っているかについて（全体）（500人）



	R3 民間ネット調査	
	全体（500人）	
知っている	194	38.8%
聞いたことはあるが、あまり知らない	211	42.2%
知らない	95	19.0%

こどもの居場所のひとつである、「こども食堂」を知っているかについて（全体）（500人） 「こどもの貧困問題」の関心の有無別比較

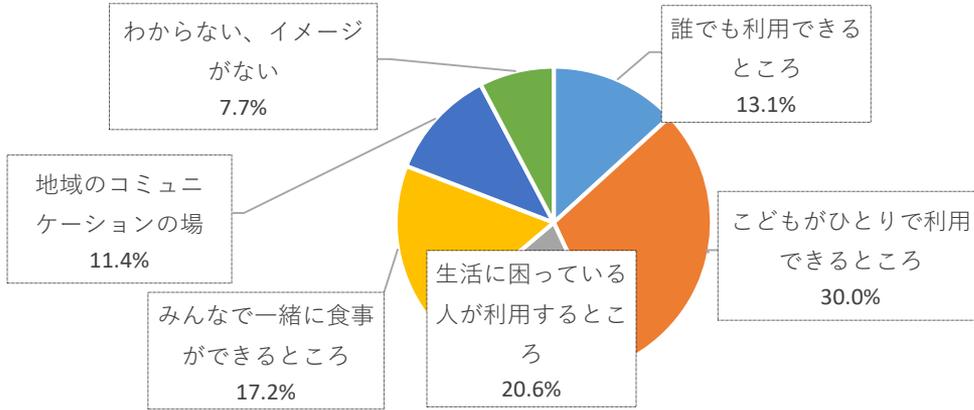


問8 こども食堂はどのようなところだと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。（個別のこども食堂ごとに対象者等は異なります。正解・不正解はありませんので、イメージをお答えください。）（複数回答）

- 全体の傾向：「こどもがひとりで利用できるところ」の割合(30.0%) が最も高く、「わからない、イメージがない」の割合(7.7%)が最も低い。
- 「こどもの貧困問題」の関心の有無別の傾向：「こどもの貧困問題」について「関心がある」方が、「関心がない」方に比べて「こども食堂」がどのようなところかというイメージを持っている傾向がみられる。

こども食堂はどのようなところだと思うかについて（全体）

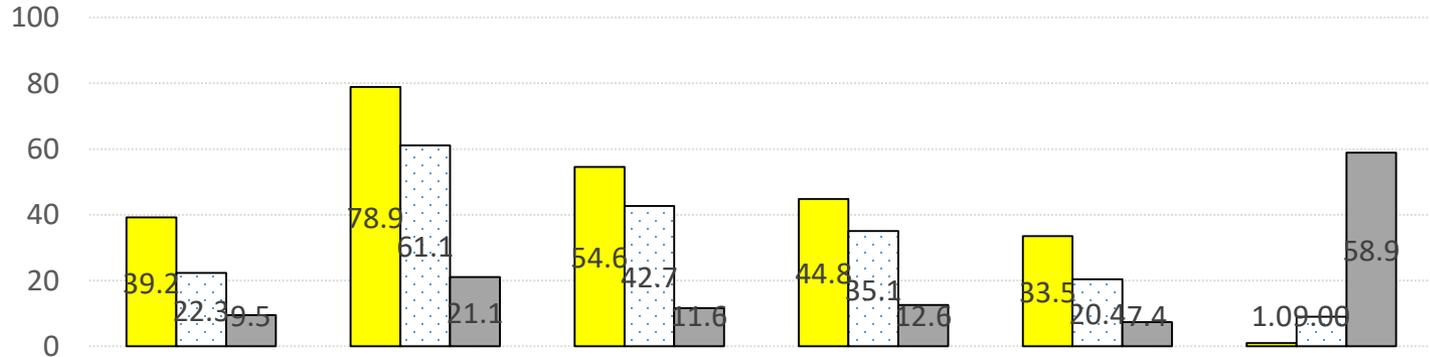
(500人)



(単位：人)

		誰でも利用できる場所	こどもがひとりで利用できる場所	生活に困っている人が利用する場所	みんなで一緒に食事ができる場所	地域のコミュニケーションの場	わからない、イメージがない	その他	合計
		こどもの貧困問題の関心の有無	ある	63	111	76	76	50	2
	ない	22	66	46	25	17	37	0	213
	どちらともいえない	47	125	85	72	48	38	0	415

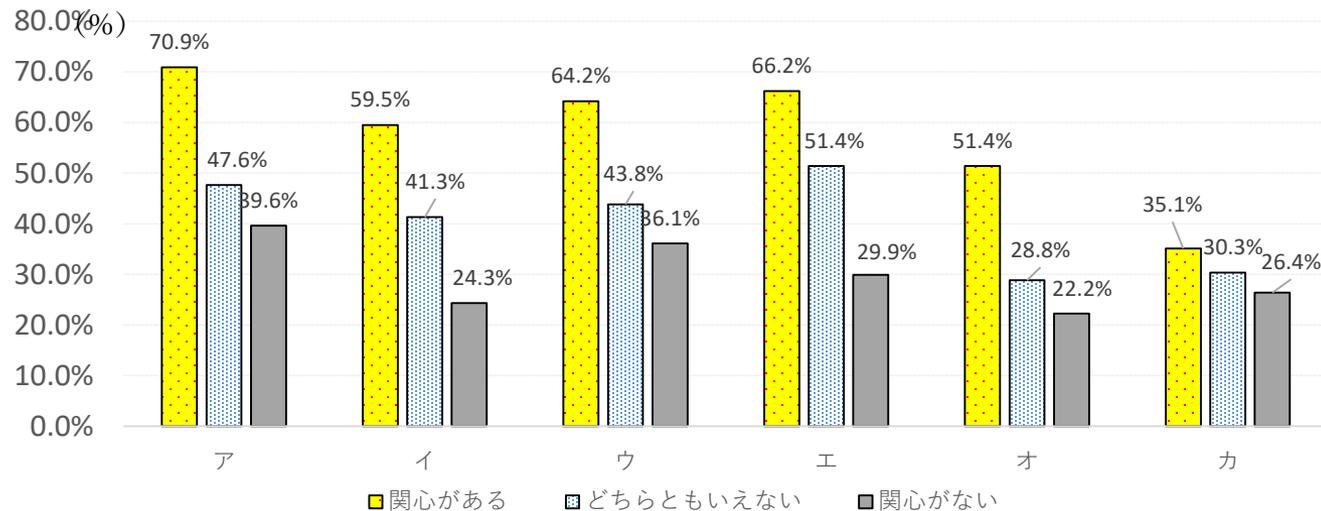
こども食堂はどのようなところだと思うかについて（全体） (500人) こども食堂を知っているかの回答別比較



問9 あなたは、こどもの貧困に関連する次の事を知っていますか。（複数回答）

- ▶ 全体の傾向：「ア 家庭の資産や収入の状況が、こどもの学習時間や読書時間などに影響し、また学習理解度に影響する傾向があること」を知っている割合（52.2%）が最も高く、「カ 放課後にいつも一人でいるこどもは、放課後に一人でいることはないこどもよりも、自己効力感が低い傾向にあること」を知っている割合（30.6%）が最も低い。
- ▶ 「こどもの貧困問題」の関心の有無別の傾向：「こどもの貧困問題」について「関心がある」から「関心がない」に回答が近づくにつれて「こどもの貧困に関連する各項目（ア～カ）」について知っている割合が低くなる傾向がみられる。

		うち、「こどもの貧困問題」の関心							
		全体（500人）		ある（148人）		どちらともいえない（208人）		ない（144人）	
ア	家庭の資産や収入の状況が、こどもの学習時間や読書時間などに影響し、また学習理解度に影響する傾向があること	261	52.2%	105	70.9%	99	47.6%	57	39.6%
イ	家庭の資産や収入の差によって、こどもを医療機関に受診させることができない割合や、保護者の健康診断の受診率などに影響するなど、健康に格差が生じる傾向があること	209	41.8%	88	59.5%	86	41.3%	35	24.3%
ウ	貧困の状況下で育ったこどもが、大人になっても貧困の状況から抜け出せなくなる（いわゆる貧困の連鎖）傾向があること	238	47.6%	95	64.2%	91	43.8%	52	36.1%
エ	ひとり親世帯では、就業と子育てを一人で担わなければならない一方で、特に母子世帯において非正規就労の割合が高く、十分な収入が得られないなど、生活の困難さを抱えやすい傾向があること	248	49.6%	98	66.2%	107	51.4%	43	29.9%
オ	若年で親となった世帯では、非正規就労の割合が高く十分な収入が得られない傾向があり、また若年で親になった母親ほど心身の負担感が強い傾向があるなど、生活の困難さを抱えやすい傾向があること	168	33.6%	76	51.4%	60	28.8%	32	22.2%
カ	放課後にいつも一人でいるこどもは、放課後に一人でいることはないこどもよりも、自己効力感（「自分にはやり遂げられる」という感覚）が低い傾向があること	153	30.6%	52	35.1%	63	30.3%	38	26.4%



問10 「こどもの貧困問題」について、ご意見がございましたらご自由にお書きください。（200字以内）

▶ 全体で65件のご意見をいただきました。

行政に関すること 29件

【いただいたご意見（抜粋）】

各家庭の問題に対してきめ細かい対応が必要。
もっと子供のいる世帯に支援してほしい。
ひとり親・失業者への補助金等の予算、ボランティアや専門職としての職員配置、義務教育中の給食費免除等が必要。

教育に関すること 6件

【いただいたご意見（抜粋）】

子供の教育費用を大学まで無料化すべきである。
高校まで義務教育にする。
教育を平等に受けさせたい。

保護者に関すること 8件

【いただいたご意見（抜粋）】

子供と同時に親も、自立できるように教育・精神的にも援助していかなければならないと思う。
母子家庭のみならず、父子家庭にも援助が必要。
子供の成長に支障を及ぼすようであれば行政に相談するなど他者に助けを求めることに躊躇しないでほしい。

社会に関すること 5件

【いただいたご意見（抜粋）】

もっと早い段階で周りにヘルプできるように、皆が優しさを持って臨まなければいけない。
社会全体の問題として考える必要がある。
社会が子どもに寛容になってほしい。

こどもの居場所に関すること 4件

【いただいたご意見（抜粋）】

空きテナントや学校も空き教室を利用して、どこの地域にも居場所があればいいと思う。
昔に比べて閉鎖的になっている今、地域の大人たちが何もできない環境が当たり前になっていると思う。個人の力では限界があるので、行政が何らかの舵取りをしてほしい。
放課後などに子供が一人では過ごせない年齢でも安心して過ごせる場所の確保。

こどもの貧困に関すること 4件

【いただいたご意見（抜粋）】

なるべく収入を均等にする。
貧困のためにいろんなことが制約され、本人の才能を埋もれ指すことになりかねない。今後の人生において引け目を感じることなくいきいきと堂々と生きていけるようサポートできればよいと思う。
平等に教育と安心した居場所を与えてほしい。

わからない、関心がないなど 4件

【いただいたご意見（抜粋）】

意見が言えるほど知識がない
税金でなんでもしてあげようとしなくてほしい
こどもの貧困には、いろいろな原因があると思うが、親の離婚が原因の場合は、離婚時に家庭裁判所等で親権や養育費などを決めてからでないと離婚できない仕組みにしていけばいいかと思う。

「協力したい」、「ボランティア活動」など 5件

【いただいたご意見（抜粋）】

定年後に協力したい。
具体的にどこでできるのかどこでどの情報を見ればいいのか分からない。
子供食堂や気軽に子供が立ち寄れる場所を提供したいと思う。